

2021年度スポーツ庁委託事業

令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」成果報告書

別紙報告書 10 冊参照

2022年3月

NPO 法人スマイルクラブ

本報告書は、スポーツ庁の令和3年度委託事業として、NPO 法人スマイルクラブが実施した2021年度《「障害者スポーツ推進プロジェクト」（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）》の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

《ここから事業完了報告の具体的な取り組み等を記載する。》

本事業概要（1）

- 1 事業名：令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト」
(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)

- 2 事業趣旨：

本事業では、柏市（柏市障がい者スポーツ推進連絡会等）と総合型地域スポーツクラブ（NPO法人スマイルクラブ）が連携し、障がい者の継続的なスポーツの実施促進に向けて、人材の養成から障がい者スポーツイベント実施までをおこない、障がい者スポーツの振興体制の強化等の環境整備をおこなうものとする。

- 3 課題・目標

1. 課題1：障がい者スポーツを普及させるための人材不足（ボランティア不足）

取り組み1：ボランティアの養成40名目標

2. 課題2：障がい者スポーツイベントの少なさ

取り組み2：上記養成したボランティアを活用したパラスポーツイベントの学校での開催（10校） 参加人数1校50人程度×10校 = 500人目標

- 4 内容：

1. 実行委員会開催

- (1) 会議の目的

千葉県柏市において、柏市（柏市障がい者スポーツ推進連絡会等）と地域スポーツクラブ等が連携し、障がい者スポーツ振興のための人材育成研修（ボランティア養成研修）やイベント（出前授業）をおこない、地域における障がい者スポーツの環境整備をはかるために実行委員会を開催する。

- (2) 委員会での検討事項

- 1) 実行委員会について

①全体概要 ②スケジュール ③メンバー等について

- 2) ボランティア（アシスタント）養成研修について

①マニュアル ②スケジュール ③講師等について

- 3) 出前授業（パラバドミントン）について

①内容 ②スケジュール ③対象校

本事業概要（2）

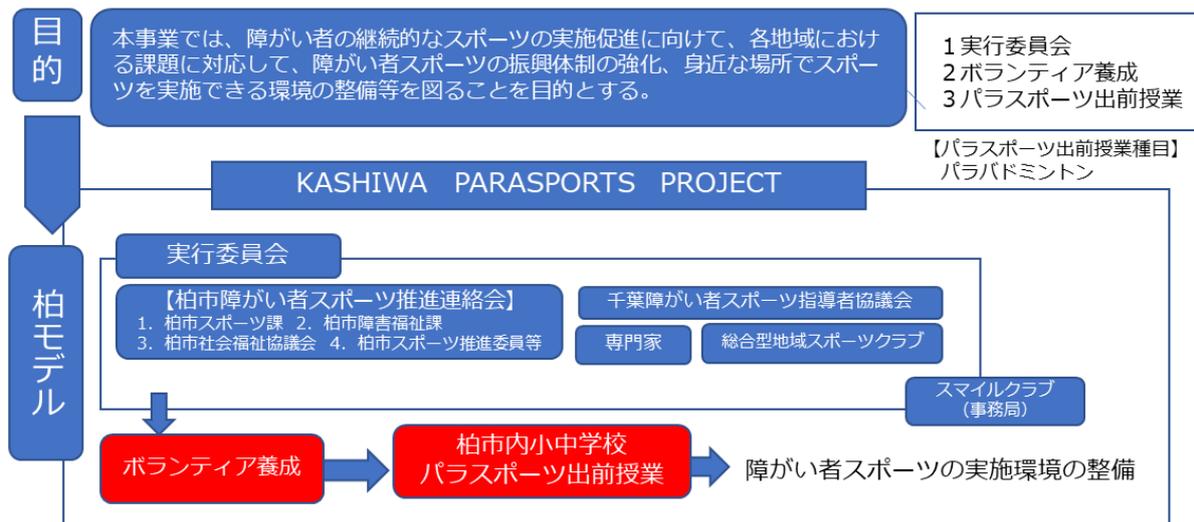
(3) 実行委員会委員メンバー ※敬称略、順不同

- 1) 柏市障がい者スポーツ推進連絡会 数名
(柏市スポーツ課、障害福祉課、社会福祉協議会、柏市スポーツ推進委員等)
- 2) NPO法人スマイルクラブ理事長 大浜あつ子
(上記推進連絡会の会長も兼務)
- 3) 千葉障がい者スポーツ指導者協議会理事 中島一郎
- 4) 日本福祉大学准教授 兒玉友
- 5) 千葉大学准教授 谷藤千香
- 6) NPO法人スマイルクラブ 大浜真 (パラバドミントン選手)
- 7) 事務局責任者 大浜三平 (NPO法人スマイルクラブ)
- 8) オブザーバー 千葉県体育課 桃木一

5 実施内容と目標

- (1) 障がい者スポーツ普及のためのボランティアの育成
養成研修会の開催1回20人×2回=40人
- (2) 障がい者スポーツの普及
柏市内10校×1校50人の体験=500人、※三密回避のため1校50人程度で設定
- (3) 本事業普及のための報告書作成 報告書100冊とその配布(50か所)

6 実施体制について



本事業実績まとめ（目標と達成率）

	内容1	内容2	目標数	実績	達成率 (%)
1	ボランティア養成	スポーツ推進委員等への研修	40人	32人	80%
2	ボランティア養成（新規）	流通経済大学生への研修	新規のため目標なし	30人	—
3	ボランティア養成	ボランティア養成 計	40人	62人	155%
4	障がい者スポーツの普及	主に柏市内小中学校（パラバドミントン出前授業）	500人（10校）	1,265人（12校）	253%
5	本事業の普及	報告書作成	100冊	100冊	100%
6		関係者へ配布（柏市、千葉県等）	50か所	50か所	100%

1 ボランティアの養成について

新たに大学生ボランティアの研修も追加することができ、その結果目標をクリア（155%）することができた。

2 障がい者スポーツの普及（パラバドミントン出前教室）

- 1) 多くの学校から要望（22校）があり、パラスポーツへのニーズの高さを確認できた。予算、スケジュール等の関係で結果的に12校に絞ることとなった。
- 2) 1,265人の達成については、特別支援学級の生徒も参加した学校もあり、参加したすべての生徒が競技用車いすに乗り、パラスポーツを体験できた。この体験が、将来の共生社会実現への第一歩となることを期待したい。